和田地区　市長と住民の「こんだん会」
～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～
報告レポート

◇開催日・開催場所
令和５年１月 26 日（木）午後６時から午後７時 45 分
和田公民館　大会議室

◇和田地区テーマ
「みんなで考えよう、和田地区の農業の発展！」

◇参加人数
27人（市長、農政課長、参加団体 10 人、傍聴者 11 人、関係職員４人）

◇参加団体
・和田地区農業再生協議会
・和田担い手生産組合
・和田水土里の会
・和田地区町会長会

◇「こんだん会」の内容
１　和田水土里の会
（1）　説明
　和田水土里の会は平成 19 年に始まった。農林水産省が農地・水・環境保全対策という名前で、認定する農地の面積に応じて金額を交付したので、和田としては「水土里の会」でやりましょうとなった。その後、平成 26 年に農林水産省が、国の農村対策の４つの改革のうちの地域政策として位置付けた多面的機能支払交付金、この制度を作ったので、これに組み替えて活動している。
　主な活動として　①　Ｕ字溝の水漏れ修理　　②　Ｕ字溝をパイプに替える
③　水漏れ目地の修理　　④　土砂上げ　　⑤　「鎮守の森ホタル公園」の造成
⑥　花壇の整備　　⑦　防草シートの布設
・　和田水土里の会の特色・・・小規模工事は全部直営。専門作業員８名、そのほか地権者、地域住民の協力。直営工事のメリットは水漏れ等に対する迅速な対応。交付金の効率的な活用が可能。
・　活動の成果・・・農業用水の水の流れがよくなった。農業用水の漏れが少なくなった。土手の草刈りが楽になった。田畑の環境がよくなった。

・ 活動の悩み･･･ホタル公園を造成し、環境を整えたがホタルが飛ばない。
・ 活動に対する課題･･･交付金の交付が遅い。交付金の制約が多い。交付金の提出書類が多い。

（2） 和田水土里の会
・ 当初は素人集団であったが、10 年活動をする中で、自分の持ち分を把握し、できるところを率先してやるようになり、出来栄えもまあまあだと思う。
・ 直営でやるため、要望にすぐ対応できるところが非常にいいと感じている。
・ これからも、交付金を有効活用し、活動を続けていきたい。

（3） 農政課長
・ 交付金は国の制度だが、県を通じて国に書類や制度の改善について要望している。引き続き要望し、改善を求めていく。

（4） 市長
・ 直営で 10 年という月を重ねた方々が取り組まれた活動を具体的に拝見した。農業環境、生活環境とって非常に大きな存在だと思う。助け合える地域である、という根底から生まれている組織で、ほかの地域において情報共有できれば、と思う。
・ 国の事業であるが、一番身近な自治体として、住民の側に立って、工夫し、改善できるところがあればしていきたい。
・ ホタルの飛ばない問題、頭においておきたい。

2 担い手生産組合

（1） 説明

当組合の前身は昭和の時代「和田そば生産組合」であり、平成 19 年に国の政策で支援の対象を「意欲と能力のある担い手」と位置付けられ、認定農業者及び集落営農組織に限られる新たな経営安定対策が施行された。そこで、新たに和田地区の農業関係者で協議し、転作作物である麦、大豆、そばを安定的に生産するという中でどうしても不可欠であるということで、「和田担い手生産組合」が設立された。

・ 活動状況･･･組合員 9 名、共同のコンバイン、各自で持っている大型トラクターを駆使し、効率的に大規模経営を実施。現在委託されている圃場については、小麦が40ha、大豆が23ha、そばが9ha。

・ 今後の課題･･･近年、難防除雑草や病害虫の発生が拡大している。農薬、肥料価格の高騰により経営が圧迫されている。委託者が行うことになっている畦畔管理が、高齢等の理由で不徹底な圃場がある。20 代の新規組合員の確保。

（2） 担い手生産組合

・ 現在は小さい圃場、不整形な圃場も荒廃地、病害虫の防止のため、トラクターが入れる圃場は受けている。今後中部縦貫道の不整形残地が増え、担い手に上がってきても受け入れが難しい状況になってくる。何らかの政策対応をしていただけるとありがたい。現状話が出たのは、コロナ禍で、家庭菜園等の需要が高くなっているようだ。その辺も検討していただければ。

・ この組合ができて、若手が入ってこない。農業の魅力を発信していかなければいけないと思っている。また、農薬散布について、農業に携わっていない方から苦情が来る。行政のほうでも何かあればお願いしたい。

・ 自分たちの機械が老朽化してきている。補助金が市や国から出るが、国の補助金は関東農政局エリアの方たちと競争で難しい。市あるいは地域独自の補助金を考えていただきたい。若い方に入っていただくには、必要だと思う。

（3） 農政課長

・ 家庭菜園について、地域の皆さんには、家庭菜園をやりたい方にきちんとできるようなフォローの体制を担っていただき、行政としては、市民の皆さんに情報提供、希望者を募る、地域の農園につなげる、というようなことやっていけばどうかと思う。

（4） 市長

・ 家庭菜園は和田で対応の受け皿が整えば、早めに進められれば、と思う。

・ 農薬散布の例は、農業をする方、農業と関係なく住む方の求めるものが違っている。色々な地域で起きてくる問題。これからは、混在しているという前提の中で、どういう道を切り開いていくかということ。行政の立場としては、農薬のリスクのレ

ベル、安心の基準を細やかに情報提供する。また、地域づくりセンターを中心として、地元と接点のある人たちを通じて地道に伝えていくことが、改善の方向に行くことかと思う。

・ 担い手不足により、荒廃農地が増えてくる、という問題は地域によって状況は違うが根本は共通している。農地の利用価値等についてはある程度の選択と集中という観点も必要。人手不足を補うためには、機械化、ICT 化の最大限の活用、そのためには資金がいる。補助金制度の在り方をもっと国の条件だけではなく松本の農業のレベルに合った制度の構築を検討していきたい。

3 フリートーク

(1) 補助金申請など IT から遠ざかっている方への対応【和田地区農業再生協議会】

・ 地区の高齢者の農業をされている方で機械を買い替えたいので、補助金申請したいが手順が難しくてわからない、という話を聞いた。IT から遠ざかっている方たちにどうアプローチするのか。

【市長】

・ 当面、紙媒体と電子媒体並列でやっていく。世代が進めばインターネットを利用する比率が増えてくが、インターネットにアクセスできない方は、紙媒体または地域づくりセンターを中心としたフェイス to フェイスに近い対応を充実したい。また、インターネットを利用できる方には、利便性、迅速性をしっかり伝えたい。

(2) 20 代の担い手が少ないことについて【和田地区農業再生協議会】

・ 食べるものが健康な体を作る、大事なことだと思う。20 代の若い方の育成についてバックアップするような体制を市でやっていただきたい。

【市長】

・ 20 代の担い手がいない、その背景、理由は何かあるのか。あればどんなアプローチが効果的か、考えることができる。

【担い手生産組合】

・ 消防も同じようなことがあるが、若い方の考え方が農業をやるという考え方がない。

・ 子供たちの味覚、こんなおいしいものが地元で採れるんだ、という発信、小さい段階から育てていく、そしてようやく花開くような感じがする。

・ 親元就農の場合は、20 代の時は親もまだ若く十分農業をやっていけるが、30 代になると親も疲れてくる、そのラインが 20 代と 30 代なのかと思う。また、もうか

らなければ、そこで終わってしまう。楽しくやって、魅力発信できることが大事。もうかる農業をどうやっていくのか、それに対して施策があればお願いしたい。
【農政課長】
・ 20 代の時はいろんなことをやって、選択肢の中に農業があれば、その後、地域に帰って農業をやるということでもいい。そのためには、小さいころの体験が大事だと思った。

（3） 道路整備に伴う残地や、遊休地の利活用、これからの農業について
【農政課長】
・ 道路整備に伴う残地の問題、地域としてそこをどうしたいのか考えなければいけない。その方向性によって、制度の利活用など支援できる。
【農業委員】
・ 和田全体のことを考えたときに、農地として守るべきところは守り、それ以外のところは別の方向を考えていく。地区内のコンセンサスを得る段階にある。
【農地利用最適化推進委員】
・ 遊休農地に今手を加えれば何とかなる、という土地を団塊の世代で集まって何とかしようという構想がある。それには資金が必要。行政の支援をお願いできないか。
【農政課長】
・ 市には遊休地、荒廃地を再生して農地としてもう一度活用してもらうための支援制度がある。誰が農業をやるかを含めて個別に相談させていただきたい。

（4） 和田地区の空き家対策の一環として、空き家を、農地付き住宅として移住者に有効利用していただくような取り組みも考えたい。【農業委員】
【市長】
・ 松本を選ぶ人たちの中には、都会と利便性が変わらない所で暮らしたい方、自然環境の下で農業と接点を持って暮らしたいという方がいる。後者にも、農地付き住宅を求める方、農業をきちんとやりたい方が住み家を求めるケース、両方ある。地域の方々でどのような空き家があるか、ネットワークを使ってピックアップし、市は情報発信を全国展開できるように進めていきたい。

移住、職や生きる場所を求めて松本を選ぶ人たちを増やしていきたい。
・ 農村部への移住も、住まいと農地、仕事と農地などいろいろな組み合わせをそれぞれの立場で考えていくことが重要なポイントだと思う。

４　最後に

【町会長会長】

　長時間にわたり、お疲れさまでした。私の町会も、40 年ほど前は 98％の家が農業に携わっていたが、今は 3，4 件くらい。農地はあるが委託や友人に頼んでやってもらっている。今、担い手生産組合や水土里の会の取り組みを聞いて苦労しながらも取り組まれていてありがたい。行政もさらなるご指導ご協力をお願いしたい。

【市長】

　本日は、様々な角度から直面している課題、こうできないかという要望をいただいた。優良農地を抱えている和田の農業は、十分稼げる農業にする、どう支え立て直すか、将来希望を持てる形にするかということは、決して展望のない話ではないと感じた。30 代から 50 代が中心になって、担い手組合を支えてやっているところをみても、和田の皆さんにとって農業の力というのは非常に大きなものがあると感じた。いただいた宿題は、できるだけ答えを出せるものは早く出していきたいと思う。